

平成6年度 全倫研全国調査報告書

高校生1万人の価値観と生活意識

平成7年(1995)11月

全国高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会

はじめに

本年は戦後50年の節目に当たり、さまざまな面からその歩みを顧み、評価・反省・課題が論じられている。学校教育についても、幾度か改革の提言がなされてきた。昭和30年12月、学習指導要領一般編によって、人生観や行為の基準となる道徳や思想について深く考えさせることの必要性が示された。そして昭和35年の改訂学習指導要領では、「倫理・社会」科が新設された。そしてこれを契機に全倫研は出発したのである。以来、教科目は変更されてきたものの、「人間としての在り方生き方について」を課題の中心に置き、生きがいや人生観・世界観について深く考えさせていくことが目標にされてきた。

その間、社会・経済の変容は激しく、高校生の実態も多様化してきたし、学校の存在も変わってきた。はじめに「高校」があって、そこに入学してきた生徒を所定の課程に従って指導するというのから、まず「高校生」があって、その高校生のために高校の教育はどうあるべきなのかが問われている。

そこで、高校生自身にとって高校とは何か、生徒は高校に何を期待し何を求めているのかを知らなければならない。わたしたちは、日常生徒と接しながらもその一面しか、或は表面しか知らないのかもしれない。現在の高校生が、どのような日常生活をしているのか、家族や社会に対する意識はどうか、そして、高校生活に何を求めているのか、また、高校生活に意義はあるのか、少しでも彼らの実態を把握しようというのが、今回の調査である。

全国一万人の高校生を対象とした調査は全倫研ならではのものであろう。全倫研調査委員が慎重に調査項目・質問方法を検討し、全国の会員の方々の協力を得て、ここに集計報告がまとめられた。しかも集計の分析や見解は、みごとに、わたしたちが見落としていたもの、気付かずいた重要な面をとらえている。調査委員の先生方のご労苦に心から感謝するとともに、会員の方々が、これを参考にされ今後の実践に活用されることを望むものである。

全国高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会 会長 坂本清治
(東京都立両国高等学校 校長)

謝 辞

全倫研全国高校生意識調査は、調査協力校の諸先生方、生徒の皆さんのご協力の賜物です。また、このような調査を可能にしてきたのは、歴代の全倫研理事・事務局、前回の調査委員長成瀬功先生をはじめとする調査委員、調査協力校の先生方のお力です。

前事務局長水谷禎憲先生、現事務局長増淵達夫先生、事務局次長佐良土茂先生には、調査の依頼、度重なる審議への出席など、調査委員会の仕事を全面的に支援していただきました。

また、晴海総合高校長小川輝之先生には、委員会の会合に快く開設準備室の場所を提供していただきました。

最後になりましたが、筑波大学教授堀洋道先生には、お忙しい中、分析についての貴重なご助言を賜りました。その全てをこの報告書に生かしきることができなかったのは、もっぱら委員長の非力によるものです。

以上の方々に、調査委員会を代表して心から感謝申し上げます。

全倫研全国調査委員長 和田倫明
(東京都立航空工業高等専門学校)

目次

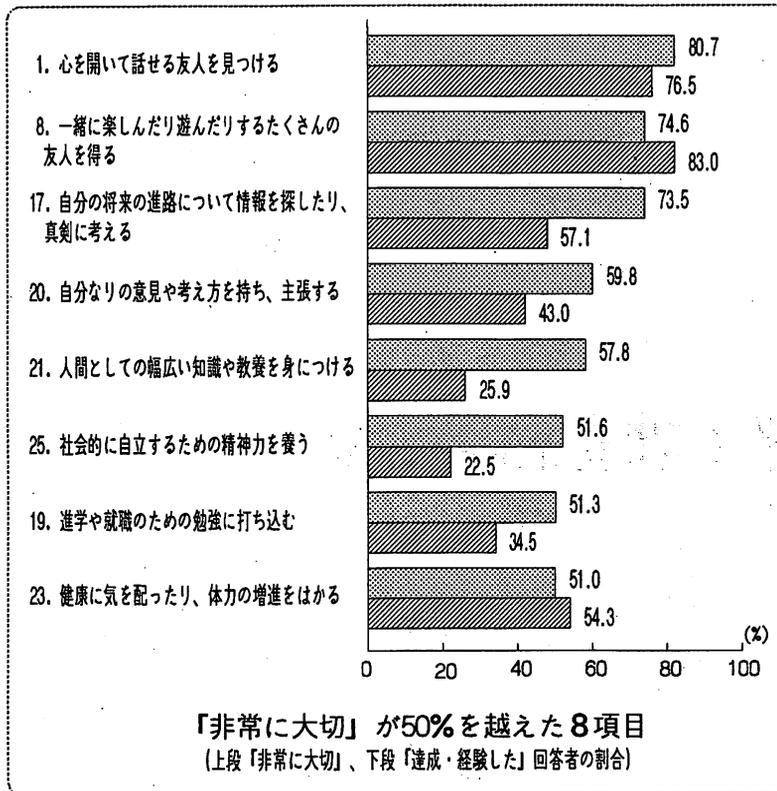
第一部：調査結果の要点	1
第二部：調査結果の詳細	7
第一章 調査の目的	8
第二章 調査の方法	8
○調査協力校（協力者）一覧	9
第三章 調査結果	10
1. 「高校生にとって大切なこと」とその達成度	10
2. 高校生の生活～家族・学校・友人	16
(1) 家族	16
(2) 学校・友人	19
3. 高校生の社会意識および生き方	23
4. 高校生と公民科	29
第四章 結果の分析	32
1. 高校生の価値観～4つの説明尺度	32
2. 高校生の志向と生活	34
(1) 家族	34
(2) 学校生活	38
(3) 友人関係	41
3. 高校生の志向と社会意識	42
(1) 他の調査との比較	42
(2) 4つの志向と社会意識との関係	44
(3) 学校不適應問題との関連	46
4. 高校生の志向と公民科教育	47
(1) 授業方法	47
(2) 授業内容	48
5. まとめ	49
第三部：資料	51
1. 質問用紙	52
2. 設問別集計表	56

執筆分担

和田倫明(航空高専)	全体の編集, 第一部, 第二部第一章・第二章・第三章1, 第四章1・5
富塚昇(晴海総合高校)	第一部, 第二部第三章3, 第四章3
西川一臣(豊多摩高校)	第一部, 第二部第三章2, 第四章2
福田誠司(大泉北高校)	第一部, 第二部第三章4, 第四章4

第一部：調査結果の要点

◎「友達関係」が大切さ・達成度ともにトップ(設問1~25)



「非常に大切」と「達成・経験した」の回答の割合で散布図を作ると、「1. 心を開いて話せる友人」と「8. たくさんの友人」がともに目立って高いことが分かる(p. 14)。「非常に大切」の回答がこれらに次いで高いのは、進路や自立に関する項目であるが、達成度は比較的低い(「大切だが達成していない」)。課外活動に関する項目は「大切ではないが達成している」、知的活動や社会・人生の問題に関する項目は「大切でないし達成もしていない」という分布になる。

◎大切さ・達成度ともに女子は男子よりポジティブ(設問1~25)

設問番号	男子>女子 2項目	男子=女子 (有意差なし)	男子<女子 15項目
18, 22	4, 5, 8, 9, 10, 16, 23, 25		1, 2, 3, 6, 7, 11, 12, 13, 14, 15, 17, 19, 20, 21, 24

「大切さ」男女間に差のある項目

設問番号	男子>女子 3項目	男子=女子 (有意差なし)	男子<女子 13項目
22, 23, 25	4, 5, 6, 10, 14, 16, 19, 20, 21		1, 2, 3, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 15, 17, 18, 24

「達成度」男女間に差のある項目

「大切さ」・「達成度」とともに、ほとんどの項目で女子は男子よりポジティブな結果になった。男子の方が女子より「大切さ」において有意にポジティブなのは「異性とのつきあい」と「学校外での遊び・つき合い」だけである。「達成度」においては「学校外での遊び・つき合い」、「健康への配慮・体力の増進」、「社会的自立のための精神力の養成」が男子に高いが、「大切さ」で男子が重視していた「異性とのつき合い」は女子の達成度のほうが高い。(有意差はマン・ホイットニー検定で $p < .00005$)

◎高校生の価値観を探る「4つの志向」(設問1~25)

4つの因子と、因子負荷の大きな項目

I. 課外活動志向

- 2. 文化祭などの学校行事に取り組む
- 10. クラブ活動に取り組む
- 11. 生徒会や委員会、ホームルーム活動などに参加する
- 12. 学校の清掃、環境美化などの活動に取り組む

II. 知的探究志向

- 4. 社会や人生に関わる、複雑で容易に答えのない問題に取り組む
- 6. 自分で進んで調査・研究をしたり、論文を書いたりする
- 13. 社会的な問題や生き方について議論する
- 14. 大作の小説や専門書など、手こたえのある本を読み通す

III. 自立志向

- 20. 自分なりの意見や考え方をもち、主張する
- 21. 人間としての幅広い知識や教養を身につける
- 25. 社会的に自立するための精神力を養う

IV. 校外交流志向

- 16. ある程度長期の、あるいは定期的なアルバイトを経験する
- 18. 異性の友人とつき合ったり、恋人を見つける
- 22. 学校の外での遊びを楽しみ、つき合いを広げる

「大切さ」のデータを因子分析した結果、「課外活動志向」・「知的探究志向」・「自立志向」・「校外交流志向」の4つの因子が抽出された。これらの各因子について、因子負荷の大きな項目は左記の通りである。これらの項目の回答を単純合計してそれぞれの志向の強さを測る尺度とし、分析に用いた。

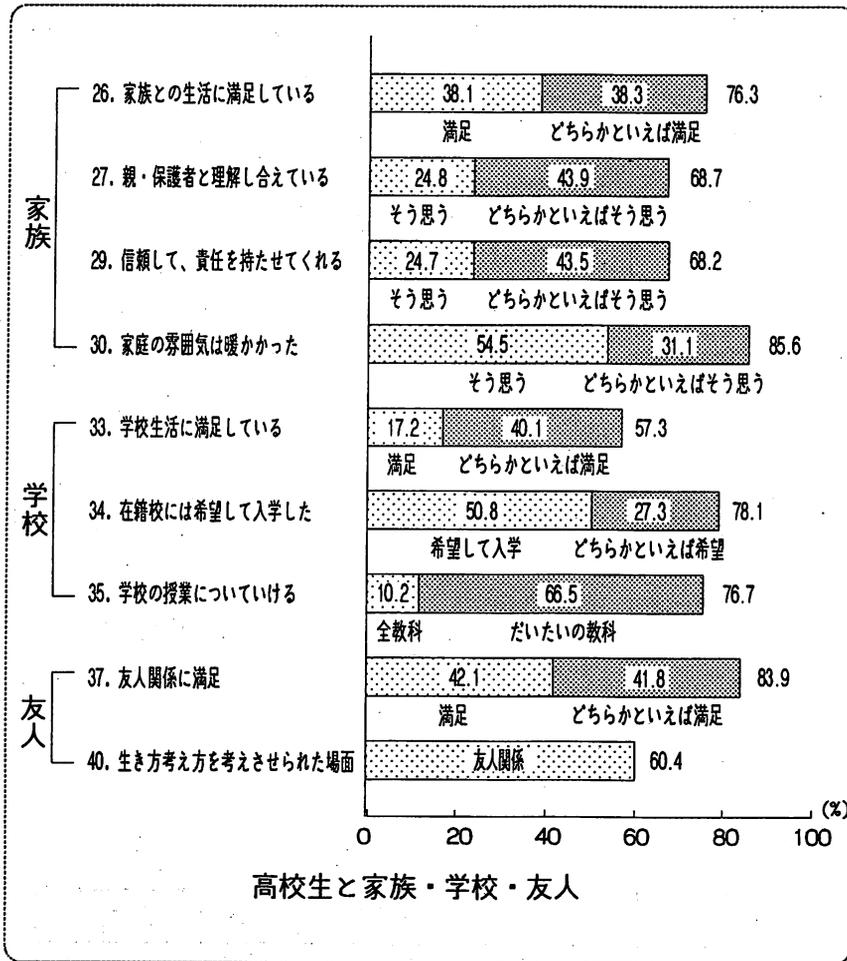
各志向の、下位群と比較したときの上位群の特徴を下表にまとめた。特に「校外交流志向」の強い生徒は、生活意識にも特徴がある。

◎「4つの志向」の特徴(設問26~52)

	課外活動志向	知的探究志向	自立志向	校外交流志向
家族	満足度高い。親との相互理解がある。	満足度・相互理解は高い。人生観や社会問題で親と意見の対立も。		生活面で親と意見対立。精神的親離れが進んでいる。
学校	満足度・希望入学者度・授業理解度・通学義務感高い。友人関係にも満足。	満足度・希望入学者度・授業理解度・通学義務感高い。	満足度・希望入学者度・授業理解度・通学義務感高い。友人関係にも満足。	友人関係には満足。
社会	環境問題に不安。家事の公平分担支持するが夫婦別姓支持は相対的には目立たず。	環境問題の他、政治や国際関係に不安。家事の公平分担支持。夫婦別姓を許容。		家事の公平分担、夫婦別姓ともに相対的には支持低い。
	環境保護や高齢化対策のための高負担を許容。			高負担を支持せず。
情報化／国際化	コミュニケーション拡大等、広く期待。情報選択・プライバシー・情報犯罪に不安。	知識教養・障害者の社会参加促進に期待。情報選択・プライバシー・情報犯罪に不安。	コミュニケーション拡大等、広く期待。情報選択・プライバシー・情報犯罪の他、管理強化に不安。	コミュニケーション拡大に期待。
	人的交流やスポーツ・文化交流に期待。	人的交流と知的興味・関心の充足に期待。		スポーツ・文化交流と海外修学旅行に期待。
公民科	ディベート・作業・発表を支持。地球的問題群や現代社会の問題に興味。	ディベート・調査・発表を支持。地球的問題や現代社会の問題の他、国際や世界の思想にも興味。		視聴覚・情報機器利用を支持。青年の心理に興味。

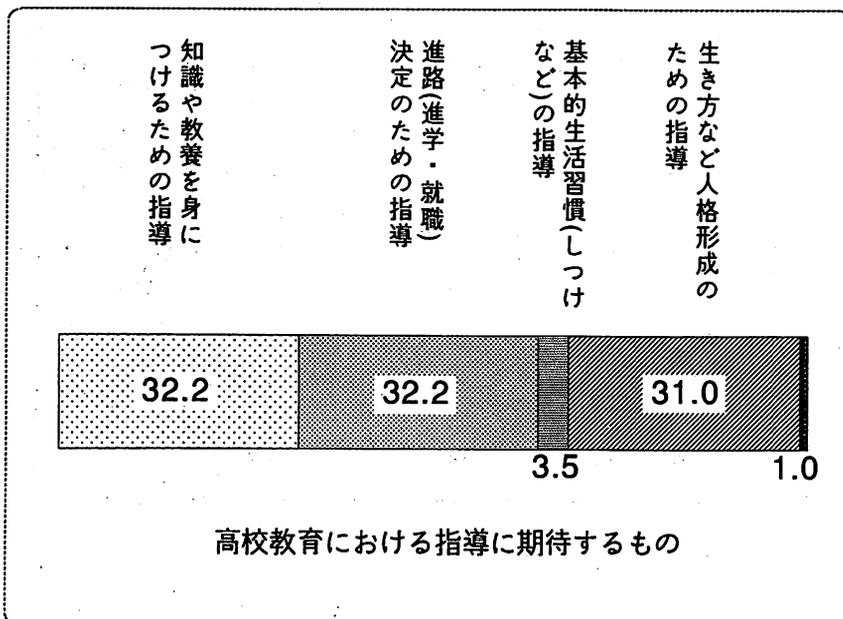
「4つの志向」上位群の特徴

◎ 「家族・学校・友人」 おおむね高い満足度(設問25~40)



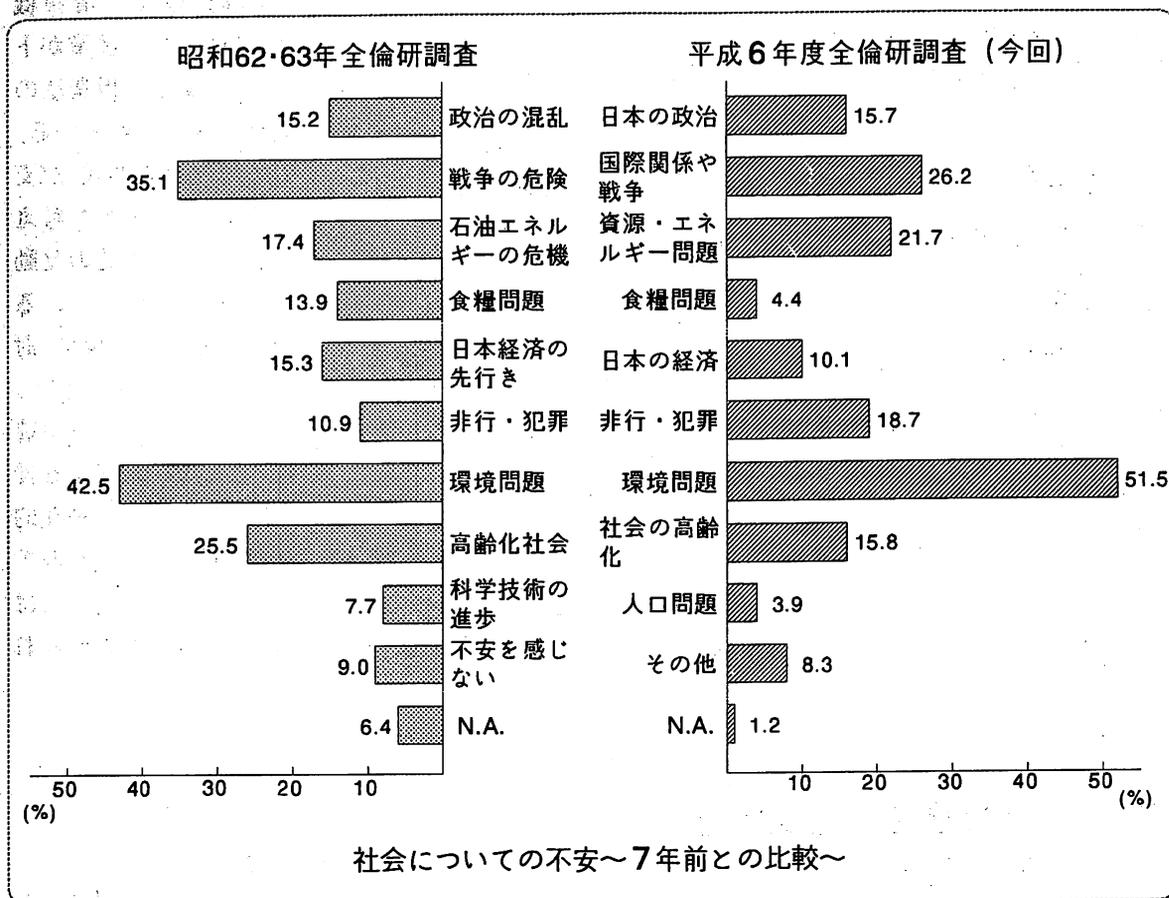
「家族生活」は、全体に満足している者が多く、親子で相互に理解し合えている・意見の対立がないと答えた者が目立った。小さかった頃の家庭も暖く、高校生になって信頼され責任を持たせてくれるようになったとする者が多い。「学校生活」にも、満足・どちらかといえば満足が多く、在籍校にも希望して入学したとする者が多い。授業についていっているという感覚を持っているようである。しかし家庭や友人に比べると、やや満足度は低い。「友人関係」にも満足し、生き方・ものの考え方も多くは友人から学んでいる。

◎ 「高校の教育指導への期待」は3つに割れる(設問38)



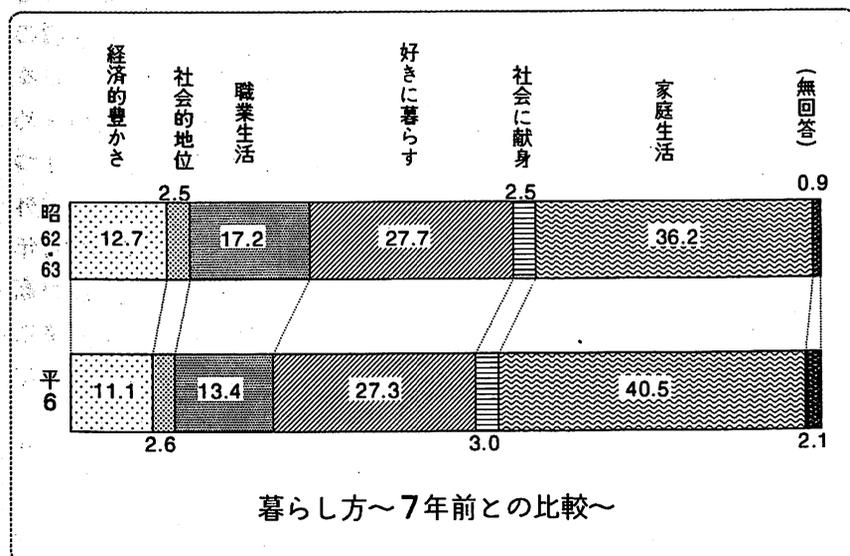
「高校教育での指導に何を期待するか」では、「知識教養」・「進路」・「人格形成」がほぼ三分する形となった。「4つの志向」で見ると、いずれも上位群に「人格形成」が多く、課外活動・知的探究・自立の各志向では下位群に「進路」が多い。全体としては、バランスのとれた教育指導が求められているとも言える。

◎「非行・犯罪」への不安が高まる(設問41)



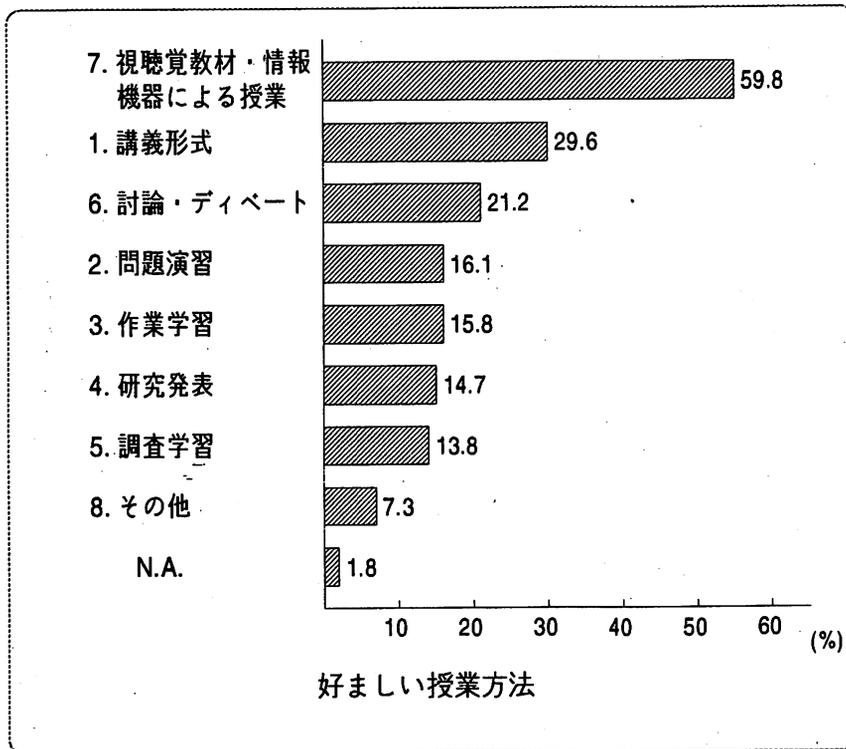
質問項目に若干の変更があるが、これからの社会に対する不安を二つまで選ばせた結果の比較である。「環境問題」・「非行・犯罪」とも7年前に比べて約8%増加している。特に「非行・犯罪」への不安の増加は、この間のわが国の社会の変化を反映しているのではないだろうか。

◎家庭生活重視の傾向さらに強まる(設問42)



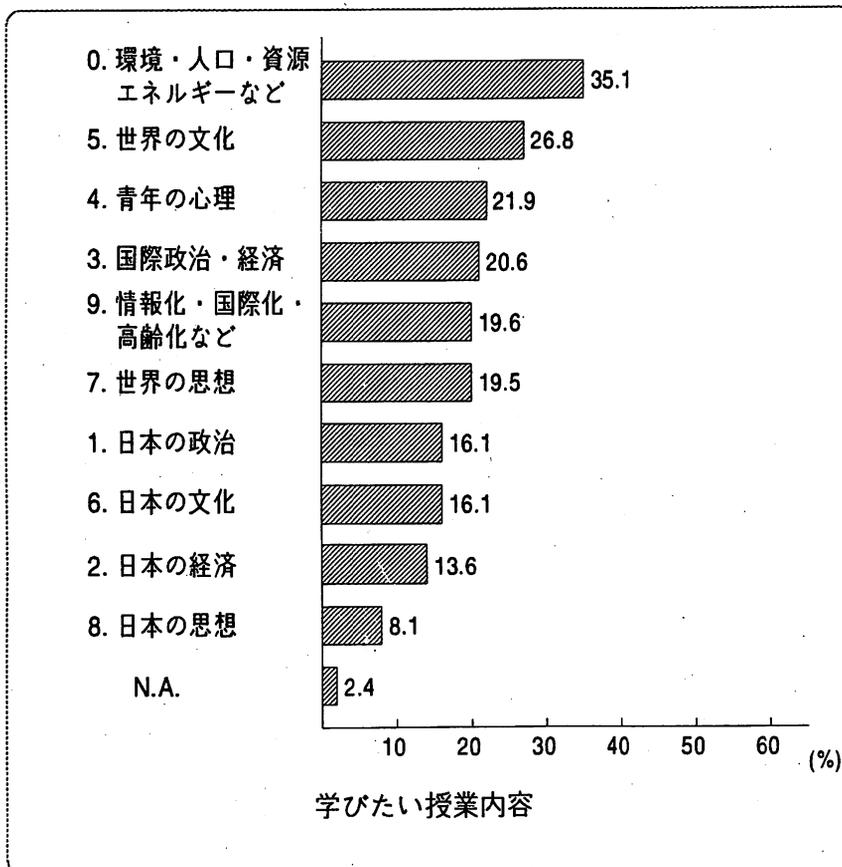
「暮らし方に関する考え」では、7年前に比較して職業生活志向がやや少なくなり、家庭生活志向が多くなった。高校生は家庭生活志向に何を表現しているのだろうか。家庭生活満足度の高さと相俟って、より深い分析が必要かも知れない。

◎好ましい授業方法は・・・(設問51)



「視聴覚教材・情報機器」を使用した授業がトップで、新しい授業法の開発が求められている。2位に「講義形式」が支持されている点も考え合わせると、生徒の受動的傾向を現わしている面もあるが、3位に「討論・ディベート」が入ったことから、やはり生徒は自分が参加できる授業を、少なくとも潜在的には期待しているのではないか。4位以下にはほとんど差は認められない。

◎学びたい授業内容は・・・(設問52)



これ以前の各設問にも示唆されていたように、地球的問題群への関心は高い。全体にグローバルな問題への関心が高い反面、「日本の～」と付く内容が下位を占めている。身近なわが国の諸問題に気づかせ、目を向けさせる工夫が求められている。また「4つの志向」で見ると、校外交流志向上位群は「青年の心理」への関心が高い。彼らを学校や授業に引き付ける手掛かりになるかもしれない。